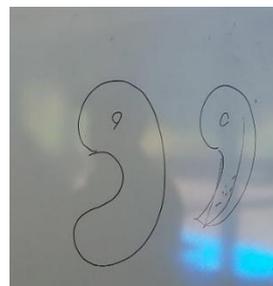


4月のクラフトサークル定例会が実施されました。  
新しいサークル員3名も参加してくださいました。今回は木の端材等を利用しての勾玉作りです。最後にできた作品の写真です。



今年はそれぞれ月ごとに担当を決めて実施しています。



これは歴史に詳しいサークル員の方が勾玉のことを説明してくださいました。  
勾玉の歴史や形についての説明がありました。関東系の涙型と関西系の先が丸い形の違い等を説明してくださいました。

古代の勾玉は、装飾品として身につけるだけではなく、祈りを捧げる儀式や霊的な石として呪術や祭具にも使われてきたようです。世界的に見ても日本や朝鮮の一部地域でしか発掘されず、それらは縄文時代にすでに作られていたようです。

魏志倭人伝（三世紀前半の日本の事が書かれた書物）にも出ていて、邪馬台国の王が、人間30人、真珠5000個、勾玉2個を魏の王に貢ぎ物として送っている例を見ても勾玉はとても高価なものだったようです。

勾玉の形に由来には諸説あり、動物の牙で作ったのを基とする説、胎児の形を模した

とする説、魂の姿を象ったとする説、巴形を模したとする説、月の形を模したとする説、等他にもあるようです。

さあ木を勾玉の形にまずのこぎりでカットします。難しいですね。丸い線は特に。



カットした背の丸い方に真ん中に線を引いています。削って行くときに均等にするためです。紐を通す穴の部分が一番太い状態で削ります。



金やすりで削っています。



電動やすりでするのが早いですね。交代で作業しています。



この後紙やすりを使い表面を滑らかにします。

その後ニスを塗ったり蜜蝋を塗ったりして仕上げた人もいます。

できてきましたよ。この方達は以前定例会で作ったガラス玉もつけていられます。



皆さんいい形になっていますね。

この方は三つつながげたのをつくられています。それぞれ年輪とかがいい味だしていますよね。



7月に竹細工をするのでこんな作品を持って来て下さった方がいました。  
もうこれは私たちではできないレベルです。メダカ作品は公園館の左にあるメダカの水  
槽の前に飾っています。



早いけど来年の干支を持ってきてくださった方もいました。

こいのぼりの作品を持って来てくださった方がいたので、公園館のオブジェのお雛様からこいのぼりに置き換えました。折り紙のかぶとも一緒に。公園館に来られたら見てくださ  
いね。

